



モーリタニア

【国名】 古代ローマ帝国の北アフリカ（現アルジェリア及びモロッコ）属州であったマウレタニア（Mauretania, ギリシャ語で「マウリ人（モール人）の国」の意）に由来（諸説あり）。

【国旗】

赤：独立を勝ち取る際に流れた血

緑及び星月：イスラム教

黄色：サハラ砂漠の砂



【国土】 約 100 万km²の国土,（日本の約 2.7 倍）の約 85%が砂漠。首都ヌアクショットでは降雨日数 10 日前後で年間降水量は 100 mmに満たない。

【人口】約 440 万人。1960 年の独立に伴い、ヌアクショットを建設。首都の人口は約 100 万人。

【言語】アラビア語（公用語）仏語

【略史】紀元前 10 世紀頃までは草原で野生動物が生息していた。初期の住民はアフリカ系であったが、砂漠化とともにベルベル人が浸透。その後、アラビア半島からアラブ人が進出し、アラブ系、ベルベル系、アフリカ系が融合する独特の伝統と文化を有する。かつての支配階級であるモール人は、アラブ人とベルベル系の先住民との子孫と言われる。

【民族】

- 全人口の約 70%がモール人，約 30%がアフリカ系。モール人は，元来支配階層であった白モール（18 世紀末にアラビア半島（イエメン）から移住してきたアラブ人とベルベル系先住民との子孫）と黒モール（白モールとかつての黒人奴隷との子孫）に大別される。
- アフリカ系は主にフラニ族，ウォルフ族及びソニンケ族。白モールと黒モール及びアフリカ系の人々との間にはかつて身分制度による分断があったため，独立以来，「民族融和」が最重要課題。
- 独立時（1960 年），当初「モーリタニア・アラブ共和国」の国名が最有力とされていたが，アフリカ系住民からの強い反発を受け，様々な民族・階層の共通項であるイスラム教を国教とすることで民族融和を図った結果，世界で 2 番目に「イスラム共和国」を名乗る国となった（1956 年のパキスタンが最初。）。

【水産資源】

(タコ)

- タコ輸出の4割は日本向け，日本のタコ輸入の約3分の1が同国産（2017年）。元々，タコ漁の知見はなかったが，初代JICA水産専門家の中村正明氏（1977年～1985年派遣）が，タコ壺漁法を紹介し，タコ漁をモーリタニアの一大産業へと育て上げた。技術指導と輸出指導により，タコ漁は経済の主要な柱に発展。2010年，この功績により同氏に国家功労騎士勲章を授与。

(水産物衛生検査場支援)

- 我が国の支援で，ヌアクショットの水産物衛生検査場を建設，機材を支援。これにより，水産資源の高付加価値化が実現されたことで，EU及び日本等に対する輸出量の拡大に貢献し，水産業の発展に貢献。

2019年2月，佐藤外務副大臣とジャイ経済・財務大臣との間でヌアディブの検査場支援の交換公文に署名。

(カラスミ)

- ベルベル系先住民のイムラジェンは伝統的に漁業に従事しており，女性がカラスミを生産。1990 年以降輸出の需要増加により，カラスミ生産が活発化している。

【食文化】

(メシュウィ)

- ラクダや羊肉を弱火で長時間ローストした肉料理。



(デーツ：ナツメヤシの実)

- オアシスが点在し，ナツメヤシが名産。ドライデーツだけでなく，生でも食される。年間国内生産量は，約2万トン。7～8月には，内陸部都市においてデーツの収穫祭が開催され，盛り上がりを見せる。

(チェブジェン)

- 魚（チョフ（ハタの一種）等）とナスやカボチャ，ニンジン等の野菜入りの炊き込みご飯。セネガルで食されるものと同じ。



【衣服】

- モーリタニア特有の男性の民族衣装は「ブーブ」と呼ばれる。体が隠れるほどの青地もしくは白地の大判の布に頭部及び腕を通す箇所があり，しばし首元には金の刺繍が施されている。
- 女性の多くは，洋服の上から「メラファ」と呼ばれる綿生地 of 1 枚布を体にまとっている。



【文化遺産】

- アラブとアフリカの文明の交差点として重要な役割を果たしてきたモーリタニアにはユネスコ世界文化遺産に4つの古代都市が登録。中でも、サハラ砂漠の入り口に位置するシンゲッティ（首都から北東へ約 500 km）は、イスラム第7の聖地として 660 年に建設され、イスラム教育の中心となり、所蔵されている写本が有名。

【広大な自然】

- 広大なサハラ砂漠が広がり、11～12 世紀、北アフリカとマリ、ガーナ、ニジェール等を結ぶキャラバン交易の中継地点として栄えた。オアシスが点在し、中でも、北部アタール近郊にあるテルジットが有名。

- ヌアクショットの東側は広大なサハラ砂漠に続いている。昼はサハラ砂漠への海風，夜は大西洋への陸風が吹き荒れる。そのため，年間 200 日以上，砂嵐が観測される。伝統衣装「ブーブ」や「メラファ」は，砂嵐から身を守る効果がある。
- 国内に約 150 万頭のラクダが生息しており，そのほとんどが中東・北アフリカ地域から輸入され，国内で養殖されたもの。富裕層は，過去にラクダの養殖で得た資本をもとに各種ビジネスを展開し成功したと言われる。また，食材としてもラクダの肉とミルクは非常に身近な存在で，家庭の食卓に並んでいる。

（バンドルガン国立公園）

- ユネスコ世界自然遺産に登録。面積の約半分が海域（1 万 2 千 km²）。沖合に暖流と寒流がぶつかる潮目があり，絶好の漁場となっているため，多くの渡り鳥の他，イルカの生息地となっている。

（ジャウリン国立公園）

- セネガルとの国境近郊に流れるセネガル川に沿って広がる国立公園。250 種以上の鳥類，フェネックやサーベルキャット，イノシシ等の哺乳類，ワニをはじめとする爬虫類や魚類等，豊かな生態系が保護されている。

（リシャット構造）

- モーリタニアの中央部には，「サハラの目」や「アフリカの目」と呼ばれているリシャット構造が存在。同構造物は，ドーム状の岩石が時間をかけ，サハラ砂漠の厳しい環境によって浸食されて形成されたと言われている。

【鉍物資源】

- 北部ズエラット地域に推定 2 億 5 千万トンとも言われる鉄鉍石の鉍脈を有する鉄鉍石産出国（年間産出量は 1, 200 万トン，世界第 15 位（2015 年）。主な輸出先は中国（約 5 割）及び欧州（約 4 割）。2018 年より，三井物産と新日鉄住金が年間 100 万トン（約 65 億円）の輸入を開始。ヌアディブ港までの輸送連結車両の長さは，世界一長く，全長 2.5 km に及ぶ。
- 2015 年にモーリタニア・セネガルの国境沖合の海域で発見された大規模海底ガス田に国際メジャー（英 BP 社，米 KOSMOS 社）が大規模参入。2022 年の生産開始を予定。

【サバクトビバッタ】

- 10 数年に 1 度サハラ砂漠でサバクトビバッタの大群が発生することでも有名。
- 2011 年 4 月から，昆虫学者の前野ウルド浩太郎博士（現国際農林水産業研究センター研究員）が現地でフィールドワークを実施（唯一の先進国の研究者）。毎年バッタが大発生する 9～12 月頃に現地を訪れ，バッタ被害解決のための研究に貢献。著作「バッタを倒しにアフリカへ」は新書大賞 2018 を受賞しベストセラーに。モーリタニアの生活や文化を周知するきっかけとなった。

【スポーツ】

- スポーツの中では、サッカーが人気。2019年夏にエジプトで開催のアフリカ・ネーションズ・カップ（CAN2019）では、代表が初めて予選を勝ち抜き、本大会に進出。
- パリ・ダカール・ラリーが、2008年に開催中止となったことを受け、2009年以降アフリカ・エコレースが開催。モナコを出発点とし、セット港（仏）からナドル港（モロッコの）まで船で移動し、モーリタニアを通過し、セネガルのダカールを目指す。総走行距離は約6,500キロ。第11回大会（2018年12月30日～2019年1月13日）には、世界ラリー選手権及びダカール・ラリーで日本人初の優勝者となった篠塚健次郎氏が参戦し、見事完走した。

（了）